

全国都市再生モデル調査 情報交換会説明資料  
みなとの特性を活かした市民参加による交流空間創出調査  
～ 北前船を活用した酒田港親水空間づくり推進調査～

特定非営利活動法人 極楽鳥海人

1. 調査の背景

北東アジア地域との交流拡大が予想されるなか、物流・人流を支える拠点として酒田港の機能の充実と強化が求められている。また、酒田港は山形県民の憩い、レクリエーション、学びの場として、さらに観光や賑わいの拠点としての機能も期待されている。

このような酒田港に対する要請を受け、長期的な視点に立った港づくりを進めるため、平成15年3月より官民が協働して酒田港長期構想の策定に向けた検討が進められてきた。(同構想は平成18年3月に完成)

2. 調査の目的

本調査は、酒田港本港地区を調査フィールドに、北前船が育んだ湊まちの文化を活かし、「山形県酒田海洋センター」、「東ふ頭上屋」などの既存ストックを最大限に活用しながら、酒田港長期構想の中で打ち出されている魅力ある親水空間・国際交流拠点づくりに関する各種実験を行い、取り組みの効果の検証と構想実現に向けた課題の抽出を目的に実施した。

なお、実施にあたっては、市民・NPO法人等、各団体や行政機関と検討委員会を組織し、調査フィールドの将来像を取りまとめた。



### 3. 調査の内容

#### (1) 検討委員会の開催

本調査を実施するにあたり、市民、NPO法人等、教育関係機関、学識経験者、国・県・市各行政機関からなる「酒田湊まちづくり委員会」による「北前船を活用した酒田港親水空間づくり推進調査」検討委員会を計3回開催した。同検討委員会には「酒田北前みなとまつりWG(ワーキンググループ)」、「国際化シンポジウムWG」、「体験学習WG」、「酒田港本港地区親水空間将来像・地域波及効果検討WG」を置き、具体的な作業を進めた。

#### (2) 「酒田北前みなとまつり」の開催

酒田港本港地区を調査フィールドに、平成17年10月22日～30日の間、山形県酒田海洋センターでは「北前船資料館シミュレーション」、東ふ頭上屋では「山鉾ミュージアム」、交流広場では「みなとまつり」を開催し、酒田港の賑わい空間としての可能性について社会実験を行った。

#### (3) 体験学習実験の実施

山形県酒田海洋センターに地域の自然、歴史に関する展示物、人を配置し、地域の子供たちや来訪者に地域の魅力を伝え、総合学習・生涯教育の拠点としての可能性について社会実験を実施した。



(4)「21世紀の北前船 国際化シンポジウム」の開催

酒田北前みなとまつり期間中に、過去8年間継続した酒田JCで行った北東アジア圏との青少年交流事業を紐解き、国際交流の必要性、可能性をシンポジウム形式で広報した。

(5)「酒田港本港地区の利活用に関するアンケート調査」の実施

酒田北前みなとまつりへの来場者に対して、酒田港本港地区を親水空間として形作ることへの意向、整備方向のニーズ、来訪意向に関するアンケート調査を実施した。



## 4. 本調査の成果

### (1) 酒田港本港地区の親水空間としてのポテンシャルの把握

本調査によって、港湾地区を親水空間として形作るための市民や来訪者の評価・意見を収集でき、同時に、親水空間整備が実現した場合の利用意向、消費金額を調査した結果、将来的な同地区への来訪者数は、延べ約53万人/年、経済波及効果は約48億6千万円と推計され、大きなポテンシャルを有することが分かった。また、親水空間づくりに向けた問題点の抽出、解決の方向性を見出したこと、および市民・来訪者の要望等がデータとしてとらえられ、その結果として打ち出された将来イメージを市民が共有化でき、「みなとの特性を活かした市民参加による交流空間創出」の計画推進に寄与することができた。

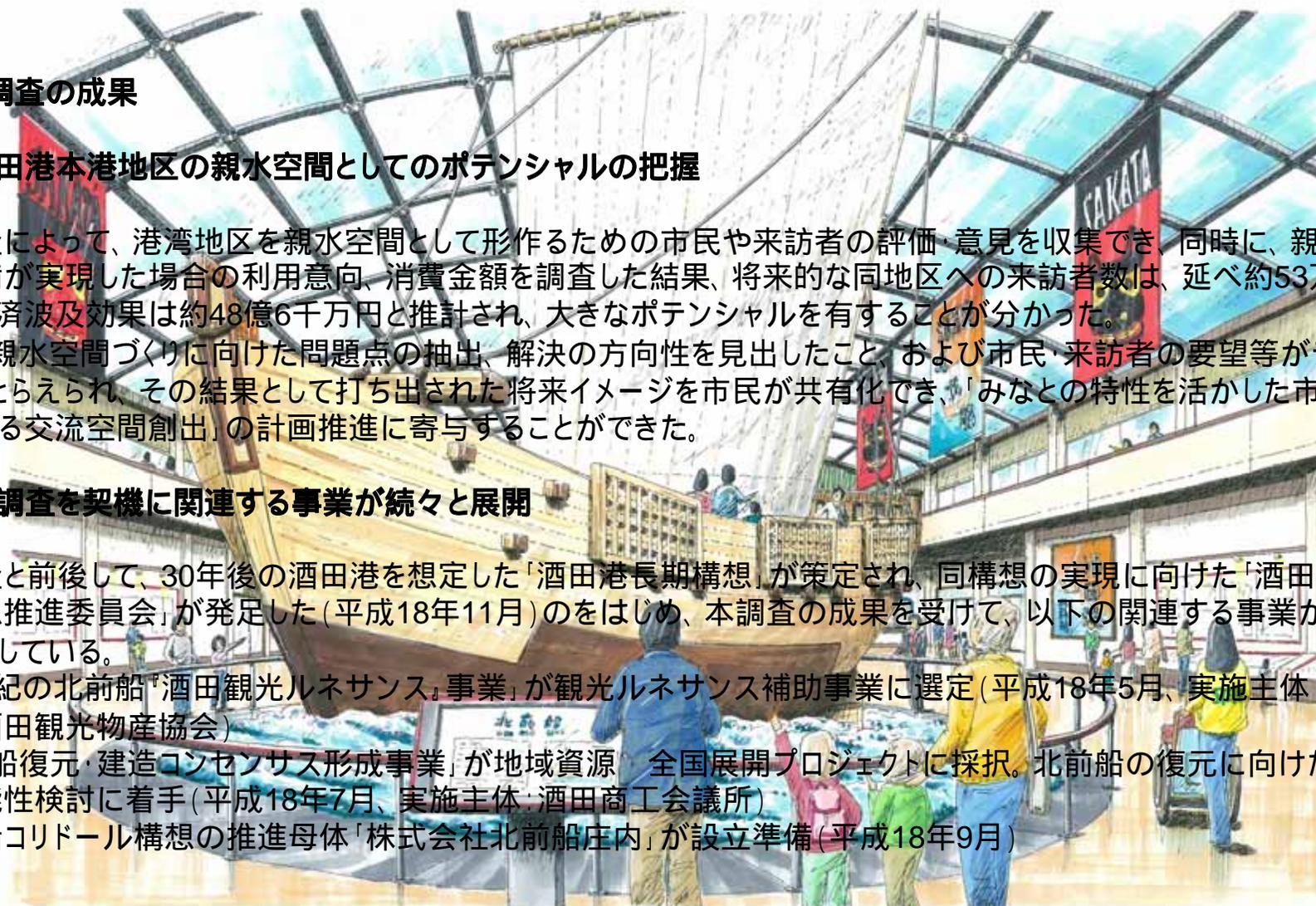
### (2) 本調査を契機に関連する事業が続々と展開

本調査と前後して、30年後の酒田港を想定した「酒田港長期構想」が策定され、同構想の実現に向けた「酒田港長期構想推進委員会」が発足した(平成18年11月)のをはじめ、本調査の成果を受けて、以下の関連する事業が続々と展開している。

「21世紀の北前船『酒田観光ルネサンス』事業」が観光ルネサンス補助事業に選定(平成18年5月、実施主体:社団法人酒田観光物産協会)

「北前船復元・建造コンセンサス形成事業」が地域資源 全国展開プロジェクトに採択。北前船の復元に向けた事業化可能性検討に着手(平成18年7月、実施主体:酒田商工会議所)

北前船コリドール構想の推進母体「株式会社北前船庄内」が設立準備(平成18年9月)



## 5. 今後に向けた課題

今まで手つかずの状態であった既存ストックである山形県酒田海洋センターの機能向上、東ふ頭上屋の利活用が、港湾地区における交流空間創出にとって重要・不可欠であることが分かった。

今後、酒田港本港地区の利活用・親水空間づくりを推進するに際しては、何よりも地域の人々の共感・賛同・支援が欠かせない。地域のより多くの人々が酒田港に関心を持ってもらうため、「酒田港長期構想」「みなとオアシス酒田」、関連する諸事業、酒田港本港地区における親水空間づくりに関する情報発信、広報活動を一層強力に展開する必要がある。



特定非営利活動法人極楽鳥海人